
第 41 回 神 戸 港 港 湾 審 議 会

議 事 録

第41回神戸港港湾審議会議事録

1. 会議の日時及び場所

- (1) 日 時 平成25年2月5日(火) 午後4時00分開会
(2) 場 所 神戸市役所1号館14階 特別会議室(AV1)

2. 出席委員の氏名

(1) 学識経験者

宮 下 國 生	加 藤 恵 正
井 上 欣 三	竹 林 幹 雄
川 島 毅	黒 田 勝 彦
今 西 珠 美	岩 井 珠 恵
南 部 真知子	石 橋 伸 子
岩 佐 光一朗	玉 田 はる代
丸 山 清 人	

(2) 市会議員

大井 としひろ	守 屋 隆 司
菅 野 吉 記	赤 田 勝 紀
浜 崎 為 司	かわなみ 忠一

(3) 港湾関係者

新 尚 一	
長谷川 陽 一	
工 藤 泰 三	(代理 秋 山 信)
田 副 忠 亮	
須 藤 明 彦	
森 本 啓 久	(代理 岩 槻 範 実)
竹 口 信 和	
田 口 雅 彦	(代理 佐 藤 宗 昭)
吉 岡 幸 治	(代理 高 島 弘 司)

(4) 関係行政機関の職員

吉 本 知 之	(代理 平 井 住 夫)
谷 本 光 司	(代理 中 島 靖)
中 村 清	
和 田 昌 雄	(代理 阪 本 敏 章)
田 中 万 平	(代理 川 上 博)

以上、出席委員33名

欠席委員5名

3. 議事の経過概要及びその結果

(1) 開 会 午後4時00分

(2) 委員の出席状況報告

委員総数38名中、出席委員33名であり、本会議は有効に成立していることを報告

(3) 委員の紹介

(4) みなと総局長挨拶

(5) 議事録署名人指名

会長が議事録署名人として、川島毅委員と長谷川陽一委員を指名

(6) 専門部会報告

宮下國委員から平成24年12月11日に開催された第32回環境整備負担金部会議決事項の報告

(会議資料5 港湾環境整備負担金に関する負担対象工事の指定について(諮問)(写))

(会議資料5(1) 港湾環境整備負担金年度別徴収額一覧表)

(会議資料5(2) 神戸市港湾環境整備負担金条例・同施行規則)

(7) 審議会の公開・非公開について

・ 公開することに決定

(8) 審議事項

「神戸港港湾計画の一部変更について」 田中計画課長から説明

(会議資料6 神戸港港湾計画の一部変更について(諮問)(写))

(会議資料6(1) 神戸港港湾計画書(案) —一部変更—)

(会議資料6(2) 神戸港港湾計画資料(案) —一部変更—)

[質疑等要旨]

(委員) 7年前に六甲アイランド(RC4/5)に世界最大級のコンテナ船が入港したが、積荷調整をして入港していたと思う。今回の計画変更により、当該船舶が満載で入港することが可能になるのか。

(事務局) 満載では入港することはできないが、各メガキャリアの動向により神戸港に入港しうる最大船型を想定した上で、当該計画変更を策定している。

(委員) 全ての大型船に対応できるような港にしなければ、釜山や上海、シンガポールといった港と伍として戦えないのではないか。

(事務局) 六甲アイランドのバースで取り扱う貨物量により、船舶の船型も変わってくる。今後とも、ターミナルのユーザーのご意見も聞きながら、国とも協議していきたい。

(委員) 「大は小を兼ねる」ということを申し上げておきたい。また、(他社の船舶であるが)神戸で建造された大型船が神戸港に入港しないことは大変残念である。

(委員) 当該計画変更による総事業費はいくらなのか。

(事務局) 国の直轄事業であり、現在、国の方で事業費の精査をお願いしているところである。

(委員) 事業費を明らかにできない公共工事なのか。このような事業が、西日本や神戸の経済、市民の雇用・暮らしに寄与するのか疑問である。

(事務局) 今回は神戸港のあるべき姿として港湾計画を議論する審議会である。事業費については、事業着手の段階で、議会をはじめ、市民の皆さまにも明らかにした上で予算市会での議決を頂き、その上で事業に着手することになる。

(委員(代理)) 西日本フィーダーサービスの充実と言われているが、(私どもの団体では)三島川之江港の指定港化に向けた取り組みを進めている。これは、港湾運送事業者法の指定を受けていない港湾において、海外に貨物が流出しているという問題もあるためであり、神戸市としても指定港化に向けた取り組みを行なっていただきたい。

以上の審議の結果、1名の委員から原案反対の表意があり、採決を行った結果、賛成多数により原案を可決した。

(9) 閉 会 午後4時46分

上記議事録は議事の内容を正確に記録したものであることを証明する。

平成 年 月 日

会 長 黒 田 勝 彦



委 員 川 島 毅



委 員 長谷川 陽 一

